第 5 回大会報告

日本甲虫学会第 5 回大会は，2014 年 11 月 22 日（土）から 23 日（日・祝）の日程で，倉敷市立自然史博物館および倉敷市立美術館を会場として開催され，166 名の参加があった．地方の大会としては，盛大に執り行うことができた．開催にあたっては次の団体の協力を得た．

大会事務局　倉敷市立自然史博物館
共催　倉敷市教育委員会・倉敷市立自然史博物館
後援　倉敷市立自然史博物館友の会・倉敷昆虫同好会・岡山昆虫談話会
補助金　倉敷観光コンベンションビューロー

1 日目は，評議員会，一般講演（2 題），総会の後，学会賞授与式が行われ，次の方々が表彰された．

論文賞　村上広将会員
功労賞　森本桂名誉会員・渡辺泰明名誉会員
奨励賞　蓑島悠介会員

授与式に引き続き，村上広将会員による論文賞受賞記念講演があった．

論文タイトル：Revision of the genus *Allochotes* (Coleoptera, Cleridae) from Japan

今大会の目玉イベントのシンポジウムは「甲虫類の知られざる生態 ― 甲虫生態学最前線 ―」と題して一般公開で開催された．コーディネーターの林成多氏の計らいで「あまり甲虫学会に登場されない方」にあえてパネラーをお願いしたそうだが，いずれの発表も衝撃的で大いに盛り上がった．4 名のパネラーの発表は次のとおり．

川野敬介氏 「わかっているようでわかっていない！？ゲンジボタルの配偶行動」

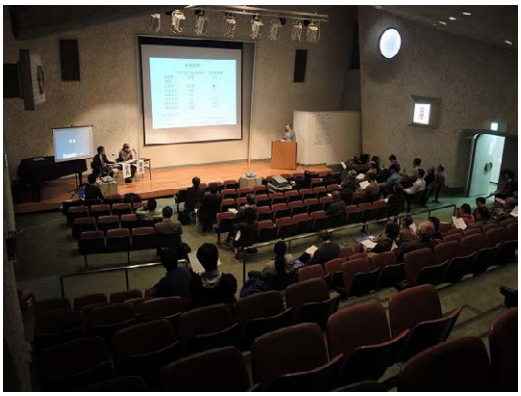
図1．総会．

図2．功労賞を受賞された森本桂名誉会員．

図3．シンポジウム．

図4．懇親会．

杉浦真治氏 「イモムシハンター・クロカタビロオサムシの得手不得手」
岡田賢祐氏 「闘う，飛ぶ，それとも物陰に潜む？ヨツボシケシキスイのオスの巧みな戦術」
越山洋三氏 「アカマダラハナムグリは鳥の巣で育つ」

夕方からは場所を倉敷ロイヤルアートホテルに移して懇親会を開催した．観光地ゆえ，当学会としては過去に例のない高級な会場となってしまい事務局としては参加者数を心配したが，107 名もの方にご参加いただきこちらも盛況であった．功労賞を受賞された森本桂先生の乾杯に始まり，飲食・歓談をともにして親交を深めた．ここで事務局の私から当学会初の講演要旨集のカラー表紙，しかも越山洋三氏による解説付きの彩色画「ヒラズゲンセイ × キムネクマバチ」についてご紹介させていただいたが，これが大変好評であった．終盤には，次年度大会事務局の蓑島悠介氏より来年は北九州市立自然史・歴史博物館での大会開催に向けて案内があった．

2 日目は，開館直後から同定会（公開）とポスター発表（8 件）が同時進行で開催された．同定会の方は大勢の会員諸氏に講師協力をいただき，特に地元の研究者らにとってはめったにない機会とあって会場はたくさんの人と標本であふれかえった．その後も一般講演（16 題）と 6 つの分科会（水生甲虫, 雑甲虫, ゾウムシ，ゴミムシ，ハネカクシ，カミキリ）と丸 2 日間ぎっしりの予定を無事終えることができた．

開催まで長期にわたりさまざまな形で事務局をサポートしてくださった大会係員の皆様をはじめ，全国からご参加いただき，会を盛り上げてくださった会員の皆様に心よりお礼申し上げる．（写真は小橋理絵子氏と末長晴輝氏の撮影）

（第 5 回大会事務局　奥島雄一）

図5．同定会．

図6．ポスター発表．

図7．一般講演．

図8．分科会．